

# 令和8年生駒市教育委員会第5回定例会会議録

1 日 時 令和8年5月19日(火) 午前9時30分～午前10時52分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

## 3 審査事項

- (1) 報告第13号 生駒市総合公園体育施設リニューアル事業基本計画の策定に伴うパブリックコメントの結果について
- (2) 報告第14号 令和8年度園児・生徒数について
- (3) 議案第23号 生駒市総合公園体育施設リニューアル事業基本計画の策定について

## 4 教育委員会出席者

|                |         |     |         |
|----------------|---------|-----|---------|
| 教育長            | 原 井 葉 子 |     |         |
| 委 員 (教育長職務代理者) | 飯 島 敏 文 | 委 員 | 吉 尾 典 子 |
| 委 員            | 友 岡 清 一 | 委 員 | 水 谷 雅 美 |

## 5 事務局職員出席者

|             |         |             |         |
|-------------|---------|-------------|---------|
| 教育部次長       | 山 本 英 樹 | 生涯学習部長      | 南 口 嘉 子 |
| 教育総務課長兼務    |         | 学校給食センター所長  | 桐 坂 昇 司 |
| 学校支援課長      | 花 山 浩 一 | 幼保こども園課長    | 松 田 美奈子 |
| 幼保こども園課指導主事 | 長 崎 文   | 幼保こども園課指導主事 | 牧 野 由 美 |
| 児童総務課長      | 知 浦 太 一 | 生涯学習課長      | 甫 田 和佳子 |
| 図書館館長       | 西 野 貴 子 | スポーツ振興課長    | 西 政 仁   |
| 教育総務課課長補佐   | 中 川 芳己江 | 学校支援課課長補佐   | 中 田 博 久 |
| 教育政策室長      | 杉 山 史 哲 | 幼保こども園課課長補佐 | 澤 辺 誠   |
| 生涯学習課長補佐    | 堀 口 聖 子 | 図書館南分館長     | 中 川 公 子 |
| 生駒駅前図書室長    | 谷 江 真美子 | スポーツ振興課課長補佐 | 大 畑 由 紀 |
| 教育総務課 (書記)  | 寺 川 寧 々 | 教育総務課 (書記)  | 上 田 静玲奈 |

## 6 傍聴者3名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・いじめ防止月間における学校等での取組について、花山学校支援課長から説明

<参照：なし>

(質疑)なし

○日程第3 報告第13号 生駒市総合公園体育施設リニューアル事業基本計画の策定に伴うパブリックコメントの結果について

・生駒市総合公園体育施設リニューアル事業基本計画の策定に伴うパブリックコメントの結果について、西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書p1、別冊1>

(質疑)

吉尾委員：今回の事業は非常に大きな費用を要するため、市民の中には不安や疑問を持つ方もおられるのではないかと感じていた。しかし、寄せられた意見を読むと期待の声が多く寄せられており、安心した。新しい体育館は大規模で広い施設になると伺っているが、様々なスポーツに対応しつつも、単に大きければ良いというものではなく、効率的な規模の検討が必要だと考えており、今後の検討に期待している。寄せられた意見の中で特に多かったのが、駐車場の確保に関する要望である。現状では路線バスが1本通っているのみで、アクセス面にも課題がある。現在の駐車台数に比べ、どの程度増やすことが可能なのか伺いたい。また、体育館が避難場所・防災拠点としても機能する場合、大型バスの乗り入れやヘリポートの設置なども想定すべきではないか。以上の点について、計画や想定を伺いたい。

西課長：駐車場については、体育館の規模や建物配置により最終的な台数は変動するが、基本設計・実施設計の中で詰めていく予定である。現時点の見込みとしては、200台から300台程度の駐車スペースを確保したいと考えている。ヘリコプターの離着陸については、敷地周辺に高圧線が走っているため、ヘリポートの設置やヘリコプターの離着陸は困難である。このため、災害時のヘリコプター利用は想定していない。

飯島委員：全体として丁寧に回答いただいていると感じている。しかし、意見一覧表の「今後の対応・修正箇所」を見ると、「原案の通りとします」という記述が多く見受けられる。文言を変更しないという意味では「原案の通り」で問題ないが、市民からの質問に対する最終的な対応がそれだけでは、冷たく突き放した印象を与えかねない。実際には、いただいた意見は今後の

計画や運営において参考にされる場面があるはずであり、その点が文面から伝わるようにした方が、市民に対して丁寧な姿勢が示せると考える。「基本計画の文言変更は行わないが、いただいた意見は今後の参考とする」といった形で、意見への向き合い方を示す文言を付け加えていただければ、より丁寧になるのではないかと。

西 課 長：修正する。

水 谷 委 員：総合公園のリニューアルは滅多にない大きな事業であり、市民の期待も非常に大きいと感じている。予算には限りがあるものの、せっかく整備するのであれば、基本設計・実施設計の範囲内で可能な限り良いものを目指していただきたい。新しい総合公園は、子どもから大人まで、また障害の有無に関わらず、多様な市民が交流できるコミュニティの場としての役割も期待される。寄せられた意見の中には交通アクセスに関する要望もあった。路線バスやシャトルバスの活用など、アクセス改善についても今後検討していただければありがたい。高山地区のグラウンドには全天候型500mトラックがあり、非常に優れた施設である。そのため、小学生を含む多くの子どもたちが陸上やサッカーで利用しており、遠方からバスで訪れるケースも多い。良い施設を整備することは、結果として集客力の向上にもつながると実感している。

飯 島 委 員：27ページ目の高齢者に関する意見についてであるが、本施設は「防災・災害物資を集荷・分配する拠点機能を主に想定している」との説明であり、避難者が直接集まる避難場所として指定していないという趣旨は理解している。しかし誤解を生まないためにも、「住民が徒歩で直接避難してくるための避難所ではなく、周辺地域のための防災拠点である」という点を、文章の中でより明確に示した方がよいのではないかと。

西 課 長：今回新しく建て替える体育館については、一部の方々の避難所にはなるが、主として周辺物資の集配等が中心となる。その点を文章に付け加えたい。

吉 尾 委 員：施設の全面リニューアルにあたり、公園としての機能を十分に取り入れ、誰もが無料で気軽に利用できる場としての拠点を大切にすべきである。また、これまで寄せられた多様な意見を踏まえつつ、期待を超える施設づくりを期待する。

#### 審議結果 【報告のとおり承認】

#### ○日程第4 報告第14号 令和8年度園児・児童・生徒数について

・令和8年度園児・児童・生徒数について、松田幼保こども園課長、山本教育部次長から説明

<参照：議案書p2～5>

(質疑)

友岡委員：児童数の減少については、市内学校の児童生徒数だけでは実態を正確に把握できない可能性がある。生駒市外の学校や私立校に通う児童生徒も一定数いるため、生駒市の該当年齢人口の数値も併せて記載することで、人口の減少による自然減なのか、市外・私立校への進学が増えているのかといった点がより明確になる。市内学校に通っていない子どもを含めた年齢人口データの反映を検討していただきたい。

山本次長：ご指摘のとおり、児童数の動向をより分かりやすく示すためには、分母となる該当年齢人口を明確にすることが重要である。令和9年度以降、そのような形をとらせていただく。

飯島委員：壱分町付近で造成が進んでいる住宅地について、約500戸規模の開発が行われていると伺っている。これだけの規模の住宅地が新たに形成される場合、今後の児童生徒数に一定の影響が出ると想定される。正確な推計は難しいと思うものの、今回の開発によってどの程度の児童生徒数が見込まれるのか、どの学区にどのような影響が及ぶのかについて、今後の学校規模の検討や教育環境の整備においても重要な視点となるため、可能な範囲で推計を示していただけるとありがたい。

山本次長：現時点では分譲価格帯や購入層の傾向が明確でないため、どの世代の方がどれほど入居されるかを推計することが難しい状況である。中には高齢者向け住宅として計画される事例もあり、入居者の年齢構成が大きく変わる可能性もある。

吉尾委員：現在、35人学級は小・中学校どちらも実施されている状況なのか。

山本次長：小学校は既に実施されているが、今年度から中学1年生も実施していく。

吉尾委員：つまり、中学校の学級数が増えているということか。担任の配置はどうか。

山本次長：中学校の学級数は増加している。また、35人学級になったことで、中学校の教員が不足する状況が県内で発生している。

吉尾委員：子どもたちに影響が出ないようお願いしたい。特別支援学級に在籍する子どもの増減はいかがか。

山本次長：増加している。

吉尾委員：学びの多様な学校やことばの教室の整備も必要となってくるということか。

山本次長：整備していく必要がある。

友岡委員：令和8年度の待機児童数の状況を伺いたい。

松田課長：4月時点での実際の待機児童数は25名、5月時点で23名である。

友岡委員：待機児童解消の見通しは立っているか。

松田課長：毎月の選考を行い、その中でできる限り調整を進めているが、保護者の希望する園と実際に入園できる園とのマッチングが難しい状況であると感じている。

友岡委員：マッチングの難しさとは、保護者が希望される園には入れない一方で、別の園であれば入園可能な枠があるという状況か。

松田課長：そのとおりである。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第号23号

・生駒市総合公園体育施設リニューアル事業基本計画の策定について、西スポーツ振興課長から説明

<参照：議案書p6、別冊2、資料1>

(質疑)

飯島委員：非常に丁寧で分量のある計画書を作成していただいている。ハード面の整備については詳細に記載されているが、完成後の運営面についても重要である。計画書28ページには「インクルーシブ・ユニバーサルの推進」という言葉が登場しているが、これはハードの整備だけでなく、指定管理者が実際に運営する際にどのように実践されるかが極めて重要である。インクルーシブな取組を確実に実施できるよう、仕様書、評価基準、運営方針といった文書の中に、どのように具体的に落とし込んでいくのかを明確にしていきたい。また、計画書に登場する「アーバンスポーツ」は、一般的に年長者の指導者に習うのではなく、子どもや若者が自由にグループを作り、自主的に取り組む文化が強い。既存の競技のように明確な体系があるとは限らない。そのため、アーバンスポーツの運営においては、子どもたち自身が運営方法やルールづくりに参加できる仕組みを設けることが重要ではないか。利用者が主体的に関わることで、より魅力的で持続可能な場になると期待している。以上の2点をお願いしたい。

西課長：ご指摘のとおり、ハード面の整備だけでなく、実際に施設を利用される方々の意見を反映した運営が非常に重要であると認識している。現在、当施設については指定管理者制度の導入を予定しており、募集の際には、今ご指摘いただいたインクルーシブな取組を運営に反映できるよう、仕様書や評価基準の中に盛り込む方向で検討していきたい。また、アーバンスポーツについては、令和14年度以降に整備を予定している。それまでの期間に、市民の皆さまから意見をいただけるような機会を設けることを検討しており、利用者の声を反映した運営方法やルールづくりにつなげていきたいと考えている。

吉尾委員：アーバンスポーツは近年非常に注目されており、今後さらに発展していく分野と感じている。今回のリニューアルでは、直接の整備対象に含まれていない部分もあるかもしれないが、将来的に整備を予定していると伺っているため、できるだけ早い段階から調査や検討を進めていただきたい。早期に取り組むことで注目度も高まり、利用者がSNSで積極的に発信することにより、利用者の関心を集める効果も期待できる。「生駒市にこんな魅力的な施設がある」と広く周知される可能性も高く、市の魅力発信につな

がるだろう。整備計画と合わせて、トイレの数などは、これから具体的に決まるのか。

西 課 長：具体的な配置や機能の詳細は、これから決まっていく段階である。計画書の34・35ページに掲載している平面・断面プランについても、現時点で私どもが必要と考える機能を仮に当てはめた「イメージ図」に過ぎない。今後、基本設計・実施設計のプロセスの中で、トイレの数を含めた細部の仕様が具体化されていく。その過程で、利用者の意見や専門的な検討を踏まえながら、より実際の運用に即した形へと精査していく予定である。

吉 尾 委 員：パブリックコメントも重要であるが、生駒南小学校、生駒南中学校では、地域の方や関係者の集まりを通じて多くの意見が寄せられてきた経緯がある。こうして地域の声を直接伺える機会は非常に有意義であり、今後、体育館についても市民や利用者と直接意見交換ができる場を設けることは、より実情に即した計画づくりにつながるのではないかと感じている。あくまで提案であるが、今後の検討をお願いしたい。

西 課 長：施設の規模も含め、利用される皆さまにとって使いやすいものとなるよう検討を進めている。今後の設計段階において、いただいたご意見を踏まえながら、より具体的内容を精査し、使い勝手の良い施設となるよう丁寧に検討を重ねていきたい。

水 谷 委 員：将来的な話にはなるが、学校のプールの老朽化に伴い、学校の授業でも新施設を活用していく流れになると理解している。多くの学校が利用することになると考えられるため、年間を通じて効率的に活用できる運用体制の構築が必要になる。現場では、今後どのように利用が進むのか、どのようなスケジュール感で運用されるのかといった具体的なイメージを早めに共有してもらえると、混乱が少なくなると考えている。

西 課 長：今後も、子どもたちが安全にこれまでと同様に安心して授業を受けられる施設となるよう整備を進めていきたいと考えている。そのため、学校現場での活用方法や運用面については、教育部と連携しながら調整を図り、適切な運営体制を構築していく方針である。

飯 島 委 員：施設が完成した後、学校からプールへ移動して授業を行うことになると、教員の負担や時間割調整など、新たな課題が生じる可能性がある。そのため、施設が完成する段階で混乱なく運用を開始できるよう、学校側との調整を早期に進めていただきたい。また、この施設は地域の部活動や地域スポーツ活動の拠点として活用されると考えられる。その際には、地域活動の優先利用枠の確保、利用料金の減免措置などについても、可能であれば前向きに検討していただき、スムーズにスタートできる環境を整えていただきたい。

西 課 長：特にプールについては、生駒市にも大規模な温水プールがあるものの、飛び込みができないなどの制限があるため、今回整備する施設では、これら

の課題を解消できるように検討を進めている。また、地域移行に伴う新たな地域クラブ活動の拠点としても、本施設が充実した活動の場となるよう整備を進めていきたい。学校利用と地域利用の双方が円滑に行えるよう、運営面も含めて丁寧に調整を進めていく。

教 育 長：プールの活用については、今年度、生駒東小学校がT A Cきらめきでモデル的に試行利用を開始する予定である。その取組を通じて得られる成果や課題を丁寧に検証し、今後の運用に生かしていきたいと考えている。

#### 審議結果 【原案のとおり可決】

#### ○日程第6号 その他

・生駒南小学校・生駒南中学校整備事業について、山本教育部次長から説明

<参照：その他資料1>

(質疑)

吉 尾 委 員：新しい施設の計画は従来の学校像とは大きく異なり、完成が楽しみである。机の配置も固定ではなく、子どもたちが自由に学び選べる空間が想定されていると感じた。このような学習環境の変化に伴い、子どもたちの学びをどのように設計し、どのようなカリキュラムが必要となるのかについても、今後検討が必要であると考えている。そのため、ハード面だけでなく、ソフト面の今後の計画や教育面での方向性について、現時点で示せる内容があれば伺いたい。

花 山 課 長：生駒市が目指す教育の方向性を実現するために、建物をその理念に沿って設計している。今後、生駒南小学校、生駒南中学校で子どもたちがどのような学びを行うのかについては、教員とも丁寧に協議しながら進めていく方針である。

教 育 長：生駒南小学校、生駒南中学校ではすでに主体的な学びの取り組みが進められており、従来の教室では対応が難しい場面もあることから、現場の意見を踏まえて新しい教育を実現できる教室空間として設計を進めている。今後は、新学習指導要領の開始も見据え、具体的なカリキュラム作成の段階へ進んでいく予定である。

杉 山 室 長：ソフト面については、今年度から生駒南小学校と生駒南中学校の先生方を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、来年度以降は特例校制度も活用しながら、特色あるカリキュラム作りを推進していく計画である。

吉 尾 委 員：子どもたちが戸惑うことなく新しい施設の中で、自ら学ぶ姿勢を育ててほしい。

飯 島 委 員：計画が進む中で、従来の学校と異なる魅力的な建物になると感じている。プロジェクトチームには、この新しい空間にふさわしい教育活動を実現するため、空間と子どもの学びを結びつけた説得力のあるカリキュラムの検

討を進めてほしい。子どもたちとともに新しい教育を創りあげていくことに期待する。

教 育 長：生駒南小学校、生駒南中学校だけでなく、市内の多くの教員から、新しい学校で新たな教育に取り組みたいという声が届いている。こうした意欲ある教員を増やしながら、この学校を拠点として、生駒市全体の新しい教育づくりを進めていきたいと考えている。

水 谷 委 員：3つのコンセプトに沿った学びの場が整備されており、地域との交流空間や安全面に配慮しつつ世代間のつながりを生む新しい取組だと感じている。今後は、生駒南小学校、生駒南中学校の良さを生かしながら、持続可能で子どもたちの力が育つ教育の在り方を深めてほしい。また、教員の多忙さを踏まえ、プロジェクトチームが開校までの3年間でどのように位置づけ、どのようなプロセスで進めるのかを示し、管理職が把握したうえで動ける体制づくりも検討してほしい。

教 育 長：地域とともにある学校づくりを目指し、1階の音楽室、家庭科室、工作室などは、地域住民が安全に利用できるようセキュリティーに配慮して設計している。また、公園が少ない地域特性を踏まえサブグラウンドやプロムナード周辺も、休日に子どもや地域の方がくつろげる空間となるように整備している。

・生駒市立学校の魅力化推進における「生駒南第二小型イエナプラン教育の推進」について、杉山教育政策室長から説明

<参照：その他資料1>

(質疑)

吉 尾 委 員：小規模の学校が取り組む可能性やメリットが、この新しい「イエナプラン教育」にあるという理解でよいか。

杉 山 室 長：ご指摘のとおり、「イエナ教育プラン」の特徴として、小規模校ならではの年齢構成を活かし、学年を越えた活動を通じて多様な子ども同士の関わりが生まれる点が大きな特徴である。その強みを生かしながら、新しい教育の推進に取り組んでいる。

吉 尾 委 員：児童、園児数の減少が進むなかで、小規模校は今後さらに増えるの見込まれるため、本取組はモデルとして重要である。大規模校でも参考にできる点を取り入れながら、子どもたちのより良い教育の充実に向けて進めていくべきである。

杉 山 室 長：現在、生駒南第二小学校と生駒北小学校、生駒北中学校で合同の研修を行っている。大規模校での実践について、子どもが円になって話をするサークル対話という実践がある。これについては規模に関わらず行うことができるため、実際の現場で取り入れている先生方もいると報告を受けている。

飯島委員：学びの多様化学校のもう１つの受け皿となるような取組である。もし学びの多様化学校への入学が難しい場合に、これまでのスタンダードな教育とは異なるため、人的な配置や先生方への支援を保証していただきたい。

杉山室長：加配についてはイエナプラン教育の資格を持っている方に支援いただくような準備を進めている。

飯島委員：１２月に二小フェスティバルがあるが、完成したものを見せるだけでなく、プロセスについてもSNS等の発信していただきたい。

杉山室長：プロセスについては、他校の参考にもなるため発信していきたい。

教育長：生駒南第二小学校の学校だよりも目を通す中で、学びに対する発信源になっていると感じている。

水谷委員：今年度の取組の部分について、探求型の授業に取り組むところが生駒南第二小学校の新たな実践と考えるがいかがか。

杉山室長：探求型の授業をメインで進めていくという報告を受けている。

水谷委員：今年度の目標の部分で、活動内容的な部分が示されているので、つけたい力についても記載があれば、より取組に対してのイメージが付きやすいと感じた。

杉山室長：昨年度末に学校グランドデザインの取組を生駒南第二小学校とあすか野小学校で作成したが、イエナプラン教育の実践の明記ができるように行っていきたい。

水谷委員：文部科学省の動きにも合わせて進めていただきたい。

教育長：小規模特認校になってから、生駒南第二小学校に転校することで学校へ通えるようになった事例も多くある。学校見学を経て通われている子どもたちがいるため、選択肢の１つとしてイエナプラン教育が有効に機能すれば良い。

・満３歳児保育の実施について、松田幼保こども園課長から説明

<参照：その他資料３>

(質疑)

吉尾委員：あすか野幼稚園への距離が遠いことでどれくらい希望される方がいるのかが気になるところである。広報への記載はされたのか。

松田課長：６月号の広報へ掲載する予定である。その他の発信についても検討している。

・認定こども園壱分こども園整備経過報告について、澤辺幼保こども園課長補佐から説明

<参照：その他資料４>

(質疑)

吉 尾 委 員：なばた幼稚園で生活されている壱分幼稚園の子どもが、なばた幼稚園で今後も過ごしたい場合はどのようなになるか。

澤 辺 補 佐：選択可能であり、転園という対応となる。

・令和８年６月行事予定について、山本教育部次長、甫田生涯学習課長から説明  
(質疑) なし

・その他  
(質疑)

飯 島 委 員：ゴールデンウィーク中に部活動遠征中の交通事故があった。児童生徒に対して成長が期待されることもあるが、そのような期待があったとして、危険な場合は実施をしないという選択も大切である。何か通知はされているのか。

山 本 次 長：現在、生涯学習部現在生涯学習部で部活動に関する調査を実施し、通知文の  
発出を検討している。学校行事でバスを使用することもあり、そちらについても調査中だが、小学校では基本的に公共の交通機関を使用していると聞いている。今後の活動について、安全性を考えていただくように教育委員会としてもお伝えしている。

○閉会宣告

午前１０時５２分 閉会